

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月15日

【評価実施概要】

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 事業所番号 | 0971000450 |
| 法人名 | NPO法人あすなろ友の会 |
| 事業所名 | グループホームあすなろ |
| 所在地 | 栃木県大田原市佐久山2274-5 (電話) 0287-28-3676 |

| | | | |
|-------|------------------|-------|-------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 栃木県宇都宮市若草1-10-6 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年11月20日 | 評価確定日 | 平成20年12月15日 |

【情報提供票より】(平成20年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------|-------------------------------|----|
| 開設年月日 | 平成17年5月15日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9人 |
| 職員数 | 11人 | 常勤7人(うち兼務2人), 非常勤4人, 常勤換算7.0人 | |

(2) 建物概要

| | |
|------|-----------|
| 建物構造 | 木造 |
| | 1階建ての1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|-----------------|------------|------------|--|------|
| 家賃(平均月額) | 14,670円 | その他の経費(月額) | ・光熱水費—500円/1日 ・日用品費, 教養娯楽費等—200円/1日 ・理美容代, おむつ代—実費 | |
| 敷金 | 無 | | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 無 | 有りの場合償却の有無 | — | |
| 食材料費 | 朝食 | 250円 | 昼食 | 300円 |
| | 夕食 | 400円 | おやつ | 50円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(平成20年10月15日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 9名 | 男性 | 1名 | 女性 | 8名 |
| 要介護1 | 2名 | 要介護2 | 3名 | | |
| 要介護3 | 2名 | 要介護4 | 2名 | | |
| 要介護5 | 名 | 要支援2 | 名 | | |
| 年齢 | 平均 84.66歳 | 最低 | 78歳 | 最高 | 89歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------------|
| 協力医療機関名 | 阿部内科, 高橋医院, 室井病院, 前田歯科 |
|---------|------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは佐久山城址のもみじの紅葉が美しく、小学校と隣接した保育園跡地にある。子育て支援の「集いの広場」に参加した乳幼児や学童保育に通ってきた子どもたちと笑顔で触れ合う入居者のほほえましい姿が絶えない和やかなホームである。地域で活動してきたNPO法人が運営母体ということもあり、地域と共に歩いていく姿勢が事業にも反映され、理事長が医師ということを活かした地域への医療知識の還元、地域との合同運動会、近所の人も準備や参加を楽しみにしている夏祭り、地域は地域で支えていくという姿勢で始まった有償運送事業など開設4年で地域になくしてはならない存在となっている。また、日々入居者と接している職員は笑顔を保ち、どうしたら入居者が自分らしく笑顔で毎日を送れるか考え、管理者はじめすべての職員が前向きな姿勢で日々の支援にあたっている入居者主体のホームである。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の外部評価で提案された「夜間想定避難訓練」を実施した。訓練前には、夜勤者が一人で行えることを想定し、避難の順番や電話連絡はどうするか等話し合いを行った。その結果、近所の人の助けを借りることの必要性を実感した。ホームでは地域消防団の「かまど検査」を受けるなど、普段からホームの事情を地域に広く知ってもらう努力をしている。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 外部評価も毎年のごときとして回を重ねているが、「自分たちの支援がマンネリ化していないか?以前改善を要したところはきちんと改善できているか?」など目的意識を持ち取り組んでいる。年1回、職員全員で評価作業に取り組むことにより心をひとつにして振り返りをしながら自分たちの質の向上に活用するといった積極的な向上心がうかがえる。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 運営推進会議は開催以来一度も欠かしたことがなく、事業所内のサービス向上のための会議にとどまらず今年度は地域包括支援センターと共同で「認知症サポーター養成講座」を開催した。運営推進会議の議論の中から地域への認知症の理解を深めるための事業実施が行われた結果となった。また、市役所との連携は強く運営協議会の参加に留まらず、地域の事業への協力、事業の委託など日常的に連携を図っている。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 毎月1回、各入居者の担当職員が請求書と共に今月の入居者の写真、体温等体調の記録、手書きのコメントなどを送り、家族と密に連絡を取っている。また、家族との関係を大切に、緊急の連絡などは適時電話連絡をしている。家族会が設置されており、事業所の運営や行事などに積極的に家族に参画してもらい、入居者、家族、職員の三者で「あすなろ」をつくっていく環境を整えている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | もともと当地で本体のNPO法人が設立されていたということだけでなく、地域の高齢者の方々と合同運動会を開催したり、毎年恒例の夏祭りの手伝いや参加を地域の方が楽しみにしていたりと地域とのつながりを大切にしている。理事長が医師ということもあり地域に医療知識を還元したり、「地域を地域で支える仕組み」として有償運送事業もスタートさせた。敷地内で学童保育も運営しており、設立4年で地域になくしてはならない存在となっている。「何かあったら地域に助けてもらうので」と謙虚な気持ちで地域との絆を深めている。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 開設当初から掲げている「ゆったりと明るいケア・笑顔のケア」等の8つの理念の他に、毎年職員全員で今年の重点目標を決め、支援のよりどころとしている。今年は「心のゆとりを持って何事も真剣に取り組むケア」を重点目標にして、職員はそれを心に留めて日々の支援にあたっている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎朝、申し送り後に職員で理念を唱えており、事務室のテーブルにも理念が書かれた用紙が置かれている。副施設長からは「理念のひとつ『過ぎたるは及ばざる如しのケア』は、あえて及ばざるの後の「が」を抜いて、『我を抜く』の意味を込めている」との説明があった。また、職員ヒアリングでは、「私はこの理念の一文が好きです」とそれぞれ好みの理念文言の回答があり、職員への理念の浸透具合もうかがえた。 | ○ | 共用型デイサービスを開始したことや入居者への介助の必要性が高まってきていることもあり、業務に追われる日常となっている状態への自戒の念を込めて、昨年と同じ「心のゆとり」を持つことを重点目標に掲げている。個別支援を強化するために職員配置を厚くし、理念や目標を実現しようと努力していることがうかがえるので、今後もこの姿勢を続けていくことに期待したい。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 元々地域の人の役に立ちたいと本体のNPO法人を設立した。地域の高齢者とともに合同運動会を開催したり、毎年恒例の夏祭りでは地域の方が手伝いや参加を楽しみにしている。同法人は同じ敷地内で学童保育も運営しており、設立4年で地域に無くてはならない存在となっている。また、「何かあったら地域に助けってもらっているので」と謙虚な気持ちで地域との絆を深めている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 外部評価を毎年のこととして受けとめ、「自分たちの支援がマンネリ化していないか？以前改善を要したところはきちんと改善できているか？」など目的意識を持って取り組んでいる。評価の機会を、年1回、職員全員が一体となってケア内容を再点検し、評価の過程を自分たちの質の向上に活用するという積極的な向上心がうかがえる。 | | |

グループホームあすなる

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2ヶ月に1回、一度も欠かさずことなく開催し、事業所のサービス向上に役立っている。運営推進会議の中で地域住民の認知症の理解促進の必要性が論じられたことから、今年度、地域包括支援センターと共同で「認知症サポーター養成講座」を開催することになった。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市との連携は強く、運営協議会の参加にとどまらず地域の事業への協力、事業の委託など日常的に協働・連携を図っている。「認知症サポーター養成研修」もその一環である。また、市内の同業者の質の向上に寄与すべく市と共同で職員勤務状態管理ソフトを作成し他事業所に提供したことがある。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 毎月、請求書と共に今月の入居者の写真、体温等体調の記録、入居者の担当職員による手書きのコメントなどを送り、家族と密に連絡を取っている。また、家族との関係を大切に、緊急の連絡などは適時電話連絡をしている。家族会が設置されており、事業所の運営や行事などに積極的に家族に参画してもらい、入居者、家族、職員の三者で「あすなる」をつくっていく環境を整えている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議に家族が参加しているだけでなく、家族会も設置されており、タイムリーに家族の意見を聞く仕組みがつくられている。以前、毎月の連絡をしている家族以外の親族から「行事等の連絡が欲しい」との希望が届いたので要望に応え、入居者とその親族との関係も深めたことがある。 | ○ | 家族の要望を捉える仕組みを充実させてホームを運営している強みを活かし、今後も積極的に家族のニーズを把握し、相談しながら要望に応じていく実践を継続していくことに期待したい。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動は極めて少ないが、退職の際はきちんと入居者に経緯を説明し、皆でお別れ会を開催し、惜しみながら入居者と別れた経験をしている。また、職員異動の入居者へのダメージを最小限にするため、新規入職者と退職者の勤務を1ヶ月ダブらせ引継ぎを行う配慮をした。職員の交替の際には家族への報告もしている。 | | |

グループホームあすなろ

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>職員の資格取得を積極的に支援し、全職員が研修に参加できるよう配慮している。各自の勉強したい事柄を軸に年間研修計画を作成し、外部研修にも参加できる環境を整えている。職員ヒアリングの際も「自分が責任を持って取り組んでいる担当部門の勉強に行かせてもらい、やる気が増している」とのコメントも聞かれた。</p> | | |
| 11 | 20 | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>市内の事業者を対象とした「介護サービス事業者連絡協議会」に「地域密着型サービス部会」があり、同事業を行う他事業者とネットワークが構築されている。また、部会を通じて有志が集まって事業内容の相談や助言など地域の事業者が連携して、お互い支援の質を上げていこうと協力し合っている。</p> | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>もともとそこが自分の部屋だったように入居者に思ってもらえるよう、自宅で使っていた物(ベッドやダンス、家族の遺影など)を積極的に持ってきてもらい、不安な気持ちが少なくホームの生活に入れるよう配慮している。共用型デイサービスが始まり、今後はデイサービス利用者がホームに馴染ってもらった上で入居することもできると考えている。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>若い職員が食事やおやつ作りを入居者に教えてもらったり、気持ちが不安定になっている入居者の傍らに寄り添い話をし共に同じ時間を過ごしている。入居者担当制を採っており、職員は責任と自覚、愛情を持って自分の担当入居者との関係を深めようと日々支援を行っている。また、管理者も「9人しかいない大切な入居者ですから」と入居者の誕生日は一人ひとりの誕生日当日に実施している。</p> | | |

グループホームあすなろ

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 開設当初に比べ入居者の状況も変わってきていることを敏感に捉え、「どのようにしたら入居者の気持ちを把握できるか」という観点からアセスメントツールの改良や日々の関わりの中での希望の把握などを工夫し、適時気持ちを捉える支援をしている。最近喫煙をする方が入居し、「日に何本の喫煙を楽しんでもらうか」「喫煙場所をどこにするか」「喫煙を忘れるような楽しい雰囲気での支援をどのように提供するか」を検討するなど、多角的に入居者の生活ニーズにアプローチしている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | アセスメントから計画作成、モニタリングに至るまでの全過程を計画作成担当者が入居者担当職員が共同で行うことによって、入居者がより良く日常生活を過ごせるよう、最適な介護計画作成ができるよう心がけている。また、細かい日々の変化も見落とさず介護記録等に記録を残し、全職員が協力して入居者の現状に合った介護計画の作成に当たっている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 開設当初に比べ、入居者の状態も変化してきたことから、モニタリング様式を一新させ、頻度も月1回から2回にするなど細かな状態変化が把握できるよう改定している。また、そのモニタリング結果を介護計画に活かすだけでなく、家族への連絡にも活用するようになり、家族も入居者の状態把握がしやすいようにした。その結果、家族への各種説明がしやすくなり、介護計画の見直しや支援内容への家族の理解が進むという利点も生まれている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携体制加算の指定は受けていないが、法人代表が内科医であり、常にホームと連絡を取りながら入居者の健康管理をし、また適切な医療支援をしている。今年度から共用型デイサービスを始めたことで、さまざまな事業者と関係を結ぶことができ、これまで以上に有用な情報が得られ、入居者の支援にも役立てることができている。 | ○ | 今年度から共用型デイサービスと福祉有償運送事業を開始し、地域における福祉サービスの拠点としての役割を果たそうとしている。地域内の人材との連携を強化・推進し、今後ますますホーム入居者と地域住民に役立つ活動を展開していくことに期待したい。 |

グループホームあすなろ


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 法人の代表である内科医が入居者全員の主治医であり、医院が近くにあり、通院を支援している。また、精神科の嘱託医が月2回ホームを訪れ、内科医と連携をとりながら入居者の健康管理をしている。ホームでは入居者に何か気になる症状があれば内科医とFAXでやりとりして指示を仰いでいる。内科と精神科以外の科目の受診については、基本的に家族が通院介助をしている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | ホームでの看取りの経験はまだないが、そのための準備として、法人代表の医師から終末期についての研修を受けている。現在の力量や支援体制の中では、医療依存が低い老衰状態なら看取りができると考えているが、重度化し医療依存が高くなった場合は、病院を紹介することになっている。 | ○ | 重度化や医療依存が高くなった場合に、入居者と家族が希望や要望を率直に話すことができ、安心して過ごせるよう、相談体制を充実していくことに期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない | 一人ひとりからの聞き取りをもとに、入居者の好みや年齢、理解力に応じた言葉かけの方法を工夫している。また、名前の呼び方も家族などに確かめた上で、ふさわしい言葉を選んでいる。プライバシー保護の観点から居室の入り口には名前を表示せず、それぞれの部屋に花の名前を付け、わかりやすいプレートをかけている。外部に出す資料などには、姓名をイニシャルに変えて表記し、個人情報の保護に配慮している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの好みや習慣などをきめ細かく聴き取ることによって、その人らしさや個性を大切にした支援を心がけている。部屋で寝ていたい人はそのように、縫い物や畑仕事をしたい人はその活動をして過ごしてもらっている。一方で、はじめは活動性が低かったが、職員が語りかけやスキンシップで丁寧に関わることで、次第に笑顔が見え始め、活動に加わるようになった入居者もあり、職員の励みとなっている。 | | |

グループホームあすなろ

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立は入居者の好みを取り入れながら給食係の職員が立てている。調理師免許を持っている職員もおり、季節感のある食事作りをしている。庭で栽培した野菜が食卓に上ることもある。家事が好きな入居者が手伝うこともあり、訪問日にはいなり寿司づくりを手伝っていた。また、雰囲気にも気をつけており、ゆっくり食事できるように気を配っている。法人医師の指示で、衛生上の観点から刺身などの生ものはホームでは出さないことになっており、そのかわり外食や店屋物の寿司を食べる機会をつくっている。調理に関わる入居者が少なくなっているため、おやつのみんじゅうやホットケーキ、ドーナッツなどを一緒に作って楽しんでいる。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 共用型デイサービスが始まったために、これまでの入浴時間にずれが生じているが、入居者の希望や状態に応じて入浴してもらっている。夜間も、職員配置を厚くして夜9時まで入浴が可能となっている。気の合う方同士と一緒に入ったり、入浴が無理な場合には夜に足湯をつかったり、入浴を拒む場合には誘いかかけの言葉を工夫して清潔を保つ配慮をしている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 基本的には一人ひとりの好みに合わせた支援をしているが、体力の維持のための体操や散歩、生活の張りを持ってもらうための書道や絵手紙、生け花教室も定期的実施している。産業文化祭に出品する作品の制作を楽しみにしている入居者や、地区の高齢者が集まる「高齢者ほほえみセンター」に近所の人と出掛け、カラオケを楽しむ入居者もいる。歌の好きな入居者が職員と歌詞カードを見ながら、昔の歌に興じている姿も見られた。隣接する学童保育の児童が遊びに来ることが喜びとなっている入居者もいる。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天気の良い日には近くに散歩に出かけたり、日常的に入居者と一緒に買い物に出かけている。また、月1回は外出や外食を楽しんでいる。今年度は日帰り組と1泊組の3つのグループに分かれて旅行を実施した。職員と入居者の和気藹々とした姿を見て、旅先で出会った人から「楽しそうですね」と声をかけられたことが嬉しかったと職員は話していた。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | ホームには玄関のほか、裏口や各居室の掃き出し窓など、多くの出入り口がある。外に行こうと思えば簡単に出て行けるが、施錠をして閉じこめることはしていない。万が一不意な外出があった場合を想定して、対応マニュアルを作成し、連絡方法や捜し方を決めている。近隣住民の協力を得るためにも、認知症サポーター養成講座を開催して、地域に理解者を増やす努力をしている。 | ○ | 認知症サポーターの養成をさらに進め、非常時の際のSOSネットワークを構築することなどにも期待したい。 |

グループホームあすなろ

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 前回の外部評価で提案された「夜間を想定した避難訓練」を実施した。訓練前には、夜勤者一人ができることを想定し、避難の順番や電話連絡はどうするか等々、職員間で時間をかけて話し合い、準備をして臨んだ。その結果、近所の人の助けを借りることの必要性を実感した。ホームでは地域消防団の「かまど検査」を受けるなど、普段からホームの事情を地域に広く知ってもらう努力をしている。また、緊急時対応マニュアルも毎年見直して充実を図っている。 | ○ | ホームでは日頃から地域との関係づくりを進めているが、災害時や非常事態の際に近隣の協力が得られるよう、運営推進会議や広報誌などを通してなお一層働きかけていくことを期待したい。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は給食係の職員が入居者の好みや季節感等を勘案して作成している。知り合いの施設管理栄養士にメニューを見てもらいアドバイスを受けている。糖尿病や便秘対策として難消化性デキストリンや低カロリー甘味料を使用している。医師から季節に応じた水分摂取量の目安を示してもらい、食事やおやつの時、入浴後、起床時などに好みの飲み物を飲んでもらっている。また、夜間に目覚めたときには必ず一口でも水分を口にしてもらったり、飲み込みに困難を来す場合はゼリーにしたスポーツドリンクを供したり、飲む量の少ない入居者にはミカンをすすめるなど、水分補給の工夫をしている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 庭園を真ん中にして「くの字型」の木造の建物である。窓のない浴室脱衣所にはトップライトが設けられるなど採光が工夫されている。居室と廊下、居間の温度差を少なくするために、扉を少しずつ開けておくことや、冬場の乾燥対策として水で濡らしたタオルを掛けて湿度を保つなどの工夫をしている。居間にはテーブルと椅子のある洋室と掘りごたつのある一段高くなった畳の部屋があり、思い思いの場所でくつろげるようになっている。掘りごたつは入居者全員で囲めるように、特注の大きなサイズとなっていて、寒くなると自然にこたつのまわりに入居者が集まっている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は畳の部屋が2部屋、洋室が7部屋あり、それぞれ少しずつ部屋の大きさや壁の様子が異なっている。和室は直接布団を敷くこともできるが、大抵の入居者はベッドを使用している。麻痺などの入居者の身体状態を考慮し、入居前の寝室を踏まえた部屋の位置やベッドの配置が配慮されている。以前使っていた家具や仏像、位牌、書籍、趣味のものなどさまざまな物品を持ち込んでいて、それぞれが個性的で居心地のよい居室となっている。 | | |

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。